

群馬県立伊勢崎商業高等学校

学校評価一覧表

(令和7年度版)

羅 針 盤		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①各学科の特色を踏まえ、専門性を生かした教育課程に、生徒の80%以上が満足している。
		②「あいさつは人より先に元気よく」を実行している生徒が80%以上である。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。
		④インターンシップへ積極的に参加し、参加した生徒の80%以上が満足している。
		⑤社会人講師（交通安全教室、非行防止教室等）による講演等を生徒の80%以上が満足している。
		⑥「課題研究」に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①生徒の実態を踏まえた学習指導を行い「授業が分かりやすい」と、生徒の80%以上が答えている。
		②すべての教師がＩＣＴの効果的な活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、授業改善の推進に取り組んでいる。
		③読書指導により、学校図書館における1日平均貸出冊数が10冊以上である。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①学習に意欲的に取り組んでいる生徒が80%以上である。
		②授業以外での全ての自主学習時間（家庭学習及び朝学習や放課後の学習を含む）は、1日平均1時間以上である。
		③高度資格取得にチャレンジする生徒が30%以上である。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度実施している。
		②生徒会活動が充実していると評価している生徒が、75%以上である。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っています	①欠席率が2.0%以下である。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が、80%以上である。
		②進路だよりを、年10回以上発行している。
		③生徒の進路について理解している保護者が、80%以上である。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①進路に関する情報を自ら得ようと努めている生徒が、80%以上である。
		②目標とした進路を実現できた生徒が、80%以上である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①学年保護者会等に積極的に参加している保護者が、80%以上である。
		②学校のWebページを1か月1に3回以上更新している。
		③「学校見学会」等の実施により、「学校の様子がわかった」との回答が参加者の80%以上である。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	①ＩＣＴを活用した授業を80%以上の教師が実施している。
	11 ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	①オンラインによるアンケート等を2回以上実施している。
		②ペーパーレスの職員会議を10回以上実施している。

方 策
・生徒の立場に立った新しい授業観に基づく授業研究を推進し、「より深く考えるようになる」、「よりうまくできるようになる」ことを目指した指導方法の充実を図る。 ・生徒の実態を考慮し、基礎基本を重視しながら専門性の深化を図る。
・授業の開始と終了の「あいさつ」を大切にし、徹底する。 ・登下校時に「あいさつ運動」を行い、人間関係の礎となるあいさつの習慣化を図る。
・部活動の充実、道徳教育や人権教育の推進を図り、自主的、主体的、協力的な学校生活が送れるよう支援する。
・社会における対人関係や協調性、職業意識をはぐくむ。進路考察等に役立つ受入事業所の開拓を行う。 ・商業科目等の学習を通して、ビジネス活動に興味を持たせ、インターンシップへの主体的な参加を支援する。
・講演等のねらいを明確にし、生徒の興味、関心、知識、理解を深める魅力ある講師を招き、事前の打ち合わせをしっかりと行う。 ・学期や年間を見通した自己テーマを設定させ、自信を持って取り組めるよう支援する。 ・実践的な体験を通して、自発的な取組を引き出す。
・研究授業や授業研究等、日々の授業改善を通して指導力の向上を図る。 ・必要に応じて中学校までの学習内容の学び直しを行い、基礎基本の定着を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の主体性を引き出す授業を目指し、ＩＣＴ機器の使用が目的となることのないよう、有効活用した授業改善の推進を図る。
・「図書館通信」及び「新着図書案内」を定期的に発行し、生徒への読書意識を高める。 ・図書館のディスプレイの工夫や、広報を通じて本のPRを積極的に行う。 ・ビブリオバトル校内大会を実施し、生徒・教師の参加によって利用拡大に努める。
・学習の進度、理解度等に遅れのある生徒に対し、習熟度別学習や計画的な補習等を実施し、つまずきや遅れを克服する。 ・学習に消極的な生徒に対し、担任と教科担当との連携した指導により意識の変革を促す。 ・教科指導と連動した計画的で持続的な課題を提示し、ねらいや学習方法、提出日等を明示し、課題に真摯に取り組み提出させる姿勢を育てる。 ・朝のSHR前に「朝学習活動」を導入し、日々の積み重ねによる学習意欲の喚起と習慣化を図る。
・授業の充実を図り資格取得につなげる。 ・希望者には検定試験対策を教科、学年で協力して実施する機会を作る。 ・個々に対応した丁寧な指導を行う。
・授業での観察、登校時のあいさつ、声かけ等を積極的に行い、生徒の変容を見落とさず、早期発見及び早期指導に努める。 ・定例の学年会議・運営委員会で必ず生徒の情報交換を行い、職員会議等を通じて職員間で情報を共有する。 ・生徒会専用掲示板等を活用し、活動状況を全生徒に周知する。 ・生徒会行事への全員参加を目標に、生徒個々の意見を生かした計画を立てる。
・長期休業前に生徒面談週間を設け、適応指導と併せていじめの発見に努める。 ・休み時間や昼休み等において生徒の行動を観察する。 ・定期的に生徒の実態に応じたアンケートを実施する。
・基本的な生活習慣の確立を全校集会やSHRで話し、促す。 ・目的意識を高めさせるため、生活目標を立てさせる。 ・必要に応じて個別健康相談を実施する。
・LHR等で「進路の手引き」を活用しての進路学習を推進し、進路資料を有効活用できる指導体制を構築する。 ・進路講話や学年集会等を通して、その時期に応じたタイムリーな進路情報を提供する。 ・各学年の進路目標に応じた「進路ガイダンス」を実施し、外部講師による講話を取り入れることで、各自の目標設定が明確になるようにする。 ・「進路だより」を継続的に発行し、適時的な進路情報の発信を行うとともに、日ごろから家庭で進路について話し合える環境づくりを促す。
・進路希望調査は、保護者と生徒が話し合い、共通理解したうえで提出する形式とする。 ・進路希望調査や適性検査等の結果を保護者に知らせることで、生徒の進路意識について家庭との共通理解を図る。
・各学校が実施するオープンキャンパスや各機関が開催する進路相談会等への積極的な参加を勧め、自ら情報収集する姿勢を育成する。 ・生徒が相談しやすいような進路室に環境を整え、個別相談を随時実施する。 ・談話コーナーに求人票や企業情報、進学資料等を配置することで、生徒自身が主体的に情報収集できる環境を構成する。
・進路面談等の場面で、本人の興味、関心、能力等に応じた助言を行い、積極的に支援を行う。 ・第3学年の2学期中に進路実現が叶わなかった生徒に対して、積極的に相談及び情報を提供し、早期の進路実現ができるように支援する。
・保護者会等のねらい、内容を明確に伝え、担任から参加を働きかける。 ・部活動の活躍、資格取得の成果、学校行事等のタイムリーな更新を行い、本校の活動の様子を積極的に発信する。 ・「伊商ニュース」を作成し、Webに掲載する。
・商業の教科書や生徒の活動を紹介するコーナーを設置するとともに、商業の魅力や様々な活動の様子、進路状況等を発信する。 ・中学生の保護者や地域の方々の来校を促す。
・ＩＣＴや学習支援ソフトなどを有効活用した授業改善が行えるようにするとともに、ＩＣＴ機器の使用そのものが目的とならないよう、活用に関する情報提供を行う。
・生徒向けの学校評価アンケートをクラスルームで配信し、実施する。また、欠席・遅刻連絡や保護者に回答を求める事案について、積極的にスマート連絡帳を活用する。
・職員会議資料をPDF化し、各自のパソコンを利用し実施する。